

## 水センサスに関する調査研究

全体期間

1998.10～2002.3

## (目的)

近年、都市化の進展に伴う、水循環系の問題の進行を未然に防ぎ、健全な水循環、良好な水環境を形成していくためには、行政機関の各部局が連携して水循環再生のための構想を策定し、流域単位で具体的な施策を効果的に進めて行く必要がある。しかし、流域水環境保全計画、水循環マスタープラン等を策定する場合、その検討は河川、下水道を含めた多岐にわたる行政機関等が有する幅広い情報の収集・解析が必要となり、その作業に多大の労力と時間を要している。一方、施策の推進に当たっては、流域の健全性の実態把握、問題点の抽出等が必要となるが、その手法が確立されていない。

本研究はこのような背景を踏まえて、流域の水循環・水環境に対する検討及び評価を支援するため、情報の一元化および共有化されたデータベースを水センサスとして取りまとめる方法を検討する。さらに、地域に密着した水環境保全計画を行政、事業者、住民が今後連携していく上での支援ツールとして活用できることを目的として、課題に応じた水センサスデータベースの整理と体系化に関する検討を行う。

## (結果)

## (1) 下水道水環境パンフレットの作成

住民や関連部局の理解を得て下水道事業計画の円滑な推進を図るために、都市における水循環・水環境と下水道の関わりにおいて、下水道が果たしてきた役割と効果および新たな課題に対する下水道の役割を示したパンフレット(案)を作成した。

## (2) 水センサス活用イメージ図の作成

水環境施策の実施に際しては、水センサスデータベースを中心として、状態評価、課題の抽出(要因分析)、改善目標の設定および改善策の検討を行い、改善策の実施後のモニタリングにより施策の評価を行う必要がある。このプロセスにおける水センサスの活用方法をイメージ図として表現した。

## (3) 全国代表水域における課題抽出調査の実施

流域が抱える課題の抽出方法を検討するために、各流域で行っている課題の定量的な把握方法、実施上の課題、住民に分かりやすい示し方(指標)等についてアンケート調査を実施した。

## (4) 水環境保全計画調査の方向性

先進都市で既に策定している水環境保全計画等と今回のアンケート調査結果から得た水環境指標を基に、水環境に関する諸問題の現状把握、要因分析、目標設定、対策検討の方向性と課題を整理し、水環境保全計画策定に係わる調査を実施する上で必要となるデータ項目の抽出と調査シートの検討を行った。

## (今後の課題)

平成13年度は、代表水域の調査結果に基づき、水域毎の課題抽出、施策の効果等を汎用的かつ定量的に示す手法を検討し、水センサスデータベースの体型化を行う。さらに、水環境保全計画策定や情報公開等における水センサスデータベースの活用方法を検討した上で、水環境保全計画調査に係わる手びきを作成する予定である。

国土交通省都市・地域整備局下水道部からの受託研究

研究担当者：中里 卓治、野村 宜彦、田中 孝、星 隆伸

キーワード

健全な水循環、良好な水環境、水センサス、データベース、水環境指標